

2016年9月27日
華為技術日本株式会社

ファーウェイとライカカメラが新研究開発センターを設立

Max Berek Innovation Lab は、新光学システム、コンピューテーショナル・イメージング、バーチャルリアリティ、拡張現実の分野での R&D を実施

本参考資料は 2016 年 9 月 23 日(現地時間)にドイツ、ウェットラーで発表されたプレスリリースの翻訳です

ファーウェイとライカカメラ AG は 9 月 23 日、共同運営の研究開発センター「Max Berek Innovation Lab(マックス・ベレク イノベーション・ラボ)」を設立し、戦略的な連携を拡大したことを発表しました。新センターは、両社が光工学の分野での長期的な技術提携を発表した 7 ヶ月後、そして、世界的に成功し、複数の賞を受賞した『HUAWEI P9』と『HUAWEI P9 Plus』発売の 5 ヶ月後に設立されることとなります。

ドイツ・ウェットラーのライカのグローバル本社に位置する新センターは、画像、モバイルデバイスアプリケーションの広い範囲で撮像品質を向上させるため、光学系とソフトウェアベースの技術のさらなる発展を目指します。また、コンピューテーショナル・イメージング、拡張現実(AR)とバーチャルリアリティ(VR)ソリューションの創造といった成果も見込まれます。ファーウェイとライカはさらに、両社の R&D リソースにくわえて、ドイツや国際的な大学・研究機関との連携も計画しています。

新センターは、ファーウェイ創業者兼 CEO の任正非(レン・ジェンフェイ)とライカカメラ AG の社主であり、アドバイザー・ボード会長でもあるアンドレアス・カウフマン(Andreas Kaufmann)博士のビジョンと支持のもと、設置されました。



Max Berek Innovation Lab 設立合意書にサインするファーウェイ創業者兼 CEO の任正非(レン・ジェンフェイ)

(写真右)と、ライカカメラ AG の社主であり、アドバイザリー・ボード会長でもあるアンドレアス・カウフマン (Andreas Kaufmann) 博士(写真左)

「将来的には、データトラフィックの 90%以上が画像や動画になります。Max Berek Innovation Lab の設立によりライカと一層緊密なパートナーシップが確立され、画像とビデオ品質の継続的な改善が実現されるでしょう。その結果、我々はスマートフォンのカメラ市場で最も先進的な技術革新を実現し、消費者により大きな付加価値を提供することができるようになります」と任は述べています。

「Max Berek Innovation Lab の創設により、ファーウェイとライカカメラ AG はその戦略的関係の範囲を拡大し、イメージング分野における画期的な技術の研究開発において緊密な協力を進める基礎を築いていきます」とライカカメラ AG のアンドレアス・カウフマン (Andreas Kaufmann) 博士は強調しています。

ライカカメラ AG の最高執行責任者で Max Berek Innovation Lab のディレクターとなるマーカス・リンバーガー (Markus Limberger) 氏は「ファーウェイとライカは比類のない革新力と長年の研究実績だけでなく、最高の品質基準を提供することを共通の目標としています。Max Berek Innovation Lab は、従来の流れを変えるような技術を開拓するため、両社のリソースと豊富な専門知識を融合する歴史的な機会を我々に提供してくれたのです」と述べています。

新センターは、最初のライカレンズのクリエイターでドイツの顕微鏡検査の先駆者であるマックス・ベレク (Max Berek) 氏 (1886-1949) を記念して命名されました。ベレク氏はオスカー・バルナック (Oskar Barnack) 氏によって開発された伝説の 35mm カメラ用の 20 以上のレンズの光学設計を担当しました。これらレンズの類まれな映像性能と完璧な調和にバルナック氏による独創的な設計が加わり、ライカは 35mm フィルム撮影で世界的な成功を収めています。